

- ②-④ 特集 農地を再び厚木の農業が危ない
- ⑤ 進む地方創生への取り組み
- ⑥⑦ 街の話題/コラム/お知らせ
- ⑧ コンクール受賞者発表

おいしいね 厚木の野菜



学校給食にキャベツを納品している農家の皆さん
(左から2人目が土井さん)

「このスープおいしいよ」「キャベツが甘いね」。待ちに待った給食の時間。子どもたちがおいしそうに頬張るスープには、市内で収穫されたキャベツが使われています。

生産農家の土井需さん(29・妻田西)は、「子どもたちが大きくなったとき、厚木の野菜を食べて育ったと思ってもらえるよう、丹精込めて作っている」と、熱を込めます。

地域で採れた食材を地域で消費する「地産地消」の取り組みの一環として、市内の小・中学校で実施しています。タマネギやジャガイモ、ニンジンなど、季節に合わせた新鮮な食材が定期的に給食で使われています。

採れたての食材を、新鮮なうちに食べられるのが地産地消の醍醐味。生産者の顔が見えることも、食材への安心・安全につながります。子どもたちが地元食材を口にすることで、食べ物に対する感謝の心とふるさとへの郷土愛を育んでいきます。

問 学校給食課 ☎225-2668

農地を再び

厚木の農業が危ない



古くから市の産業を支え、私たちの生活にも身近な農業が今、一部の地域で「耕作放棄地」が目立ち始めるなど、大きな危機を迎えようとしている。今回の特集では、そんな厚木の農業の現状と、これからの迫る。 農業政策課 ☎225-2800



農業が抱える問題

全国的な問題となっている高齢化の進展と人口減少の波は、農業従事者の高齢化と後継者不足を一層加速させた。結果、農地でありながら活用されない土地が増え、周囲に影響を及ぼしている。

近年、消費者の食の安心・安全への意識や健康志向の高まりにより、生産者の顔が見える地元食材が大型スーパーにも並ぶなど、注目を浴びている。一方で生産者である農家は、高齢化や人口減少の進行により、担い手不足などで衰退の一途をたどっている。平成17年に市内で1995戸だった農家の数は、この10年間で約400戸も減少。手入れされずに荒れてしまう耕作放棄地が発生する原因となっている。

農家の約7割が後継者不足

市内で農家が減り続ける中、次の世代に農業を引き継ぐことは大きな課題だ。しかし、本市の農業従事者の平均年齢は68歳を超え、後継者問題を抱える農家が少なくない。25年から28年に市が実施した「人・農地プラン」にかかるアンケート（下欄参照）では、約7割が「後継者がいない」と答えている。

「特に山や谷間が広がる中山間地帯に農地が多くある地域は後継者不足が顕著。一つ一つの面積が狭く、作業の機械化が難しいばかりか、近年ではイノシシやシカ、サルといった有害鳥獣の被害もあり、農業離れが進んでいる」。農業委員会の会長を務める堀池春夫さん（63・岡田）は、そう訴える。これらが原因で、農作業や農地の管理が難しくなることに加えて、農地の売買が法律で厳しく制限されているこ



厚木の農業の今後を考える堀池さん

とから、耕作放棄地が発生している。

耕作放棄地に潜む危険性

耕作放棄地は、害虫・雑草の発生原因、有害鳥獣のすみかになるなど、近隣農地にも大きな被害をもたらす。また、ごみの不法投棄といった、環境や治安の悪化にもつながる可能性があり、ま

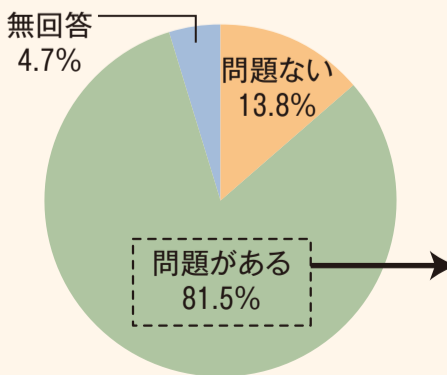
ち全体に悪影響を及ぼしかねない。近年市では、対策として、JAあつぎや市農業委員会と都市農業支援センターを開設。新規就農者の支援や、所有者が異なる放棄された農地を集め、意欲のある農家に一つの農地として貸し出す「農地の集約」などを進めている。現在は対策が功を奏し、耕作放棄地の増加を食い止めている。しかし堀池さんは「人口が減り続けて高齢化が進み、後継者不足がより深刻になれば、近い将来に市の農業は危機的状況を迎えるかもしれない」と警鐘を鳴らす。人口減少が進む中、農業を守るために今、考え始めなければならない。

なぜできる？耕作放棄地

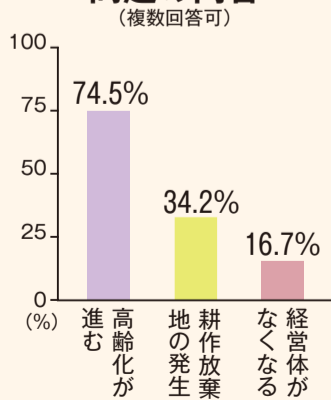
耕作放棄地は農業従事者の高齢化や後継者不足などが主な原因で発生します。発生すると、公衆衛生の問題など、私たちの日常生活にも影響を及ぼします。



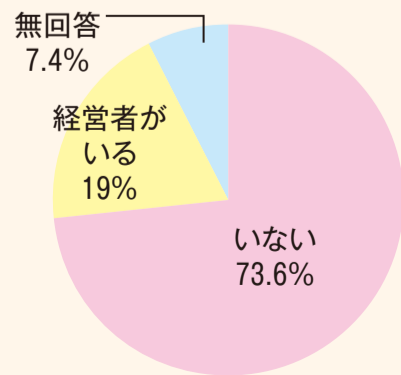
5~10年後の集落・地域の農業の問題の有無



問題の内容



未来の地域農業の担い手



（人・農地プランにかかるアンケート平成25~28年実施・回答者数1230人）



農業に新たな風を

農業の担い手不足や耕作放棄地の増加が問題視される中、市内には夢や志を持って、農業に参入する者たちがいる。独自の発想を取り入れた彼らの営みが、農業に新たな風を吹き込んでいる。

有機野菜で消費者を笑顔に

朝の冷気が立ち込める畑で黙々と野菜を収穫する男性がいる。鈴木貴さん(38・中萩野)。4年前に会社員から農家に転身した「新規就農者」だ。耕作放棄地を借り受け、化学肥料や農薬を一切使わない有機野菜を育てている。

旬な野菜を食卓へ

「おいしい野菜を届けたい」。そう言って笑顔を浮かべる鈴木さんが農業を始めたのは、平成23年の東日本大震災がきっかけだ。自然の力の前になすすべがなく、無力感に襲われる中、生きる上で欠かせない「食」を支える農家の仕事に深く感銘を受けたという。未経験ではあったものの、これをきつ



季節に合わせた旬な野菜の栽培にこだわる

かけに農家への転職を決めた。

注目したのは、研修先の先輩農家から教わった有機農法。落ち葉や家畜のふんなど、地域で出た資源を有効活用して種から育てるといふ昔ながらの農法が、野菜本来の甘さや風味を引き出すということに、奥深さを感じている。鈴木さんは手塩にかけて育てた野菜を、注文を受けたお宅に自ら届けている。野菜の出来を直接説明する傍ら、消費者の率直な感想や意見を聴くためだ。「あの野菜が食べてみたい」「この時期はもっと葉物があると助かるな」。そんな消費者の声にどれだけ応えられるか。消費者の喜ぶ姿を思い浮かべながら野菜づくりに励んでいる。



配達先では調理方法や育て方など野菜を通じた楽しい会話に花が咲く

自分の力を地域に還元したい

鈴木さんが耕す農地は、市と市農業委員会、JAあつぎが共同で開設する都市農業支援センターからの仲介で借り受けた耕作放棄地だった。長年、人の手が入っていない荒地は、土壌が悪く安定した野菜の収穫が難しい。鈴木さんは土壌の問題や害虫・鳥獣被害などの課題がある中、試行錯誤を繰り返してここまで野菜を作り続けてきた。その結果、現在は農地を4カ所1.5畝まで拡大。年間60種の野菜を栽培している。「熱心に農業へ打ち込む姿は地域でも評判」と話すのはセンター長の井萱論さん。「鈴木さんの働きぶりを見て新規就農者に土地を貸したいという声が増えている」と周囲の変化を語る。「農業の危機が叫ばれている今だからこそ、新たに参入した自分の力で農業の可能性にチャレンジしたい」と意気込みを語る鈴木さん。「地域の資源で作った野菜で地域の人の食を支える農業を根付かせていくことで自分のように就農を希望する人たちの力になりたい」。そう続け前を向いたまま、なごしは、真つすぐと将来を見据えている。



家庭に届けられる新鮮な野菜

農業体験でまちおこしを

「大きくなったね」「もう少しで採れるかな」。農園から収穫の時を待ちわびる声が聞こえてくる。ここは、野菜の作付けから収穫までが体験できる「飯山農楽校(以下農楽校)」。平成28年3月に開校された、耕作放棄地を活用した滞在型体験農園だ。

飯山の特長を生かして

農楽校は、農業体験を通じて地域に人を呼び込み、活性化させる取り組みとして始まった。担い手不足などで地域に荒廃農地が目立ち始める中、土地の活用が進まない状況を危惧し、兼業農家の渡辺一夫さん(74・飯山)を中心に周辺農家が一念発起。集まった10人のボランティアで野菜づくりの指導に当たっている。市やJAあつぎではこの活動に注目し、農業が抱える問題解決への糸口として支援を進めている。農園は現在、市内を中心に20代の家族連れから80代の定年退職者まで幅広い層の18組が利用。3月から翌年の1月までジャガイモや落花生、キャベツなど、約20種類の野菜を栽培している。収穫祭や交流会などに年数回開かれるイベントも好評で、利用者同士の交流の場となっている。最大の特長は、年



野菜を自分たちの手で作る難しさや楽しさが学べる

に一度、地元飯山温泉の旅館に泊り体験農園が楽しめること。「他にはない飯山の魅力を取り入れたらどうか」という発想から実現したもので利用者からも評判だ。



地域の活性化を目指す渡辺さん

まちおこしに筋の光

体験農園は、野菜を自分の手で楽しみながら育てられる点が良いところ。家族で参加する前田宏章さん(36・緑ヶ丘)は「自分たちで作る野菜の味は格別。息子は農楽校をきっかけに野菜が好きになった」と笑顔で話す。渡辺さんは「利用者に地域への愛着を持ってもらえたらうれしい。いずれは農楽校を運営する仲間として一緒に活動できたら」と夢を語る。農業に興味を持つ人たちが外から集まり交流を深め、地域を活性化させる。理想をかなえるため、農楽校の挑戦は続く。

農業を取り巻く環境は年々厳しさを増している。しかしこうした「厚木の農業を盛り上げたい」と農業に新たに参入しようとする者たちの熱い思いは、農業再生への布石になるかもしれない。

参加者募集

3月10日新年度開校 野菜を育ててみませんか

場所 飯山4094 区画 40区画(30㎡)

料金 年間3万7000円(種苗・肥料、農機具代、温泉旅館1泊朝食付きの宿泊代含む)

作付け ジャガイモ、キャベツ、ハクサイ、トマト、ナス、キュウリなど

利用期間 3月~平成31年1月

☎電話またはファクスで飯山農楽校・渡辺 ☎090-1843-1117・☎241-3295へ。



農楽校で収穫した大根の大きさに子どもも大喜び



センターで貸し出した大型農機具で麦を収穫



耕作放棄地だった農地で採れた津久井在来大豆



一面キャベツ畑になった耕作放棄地



地元の野菜を使った料理は子どもにも好評



地元産の野菜がずらりと並ぶJAあつぎ農産物直売所「夢未市」



「あつまる」(左)や「朝市・夕焼け市」(右)でも地元農産物を販売



農業を後世へ

都市近郊で行う農業には、消費者と生産者の距離が近く、採れたての農畜産物を新鮮なまま提供できるといった魅力がある。また、環境や景観を保持することで、私たちの生活にゆとりや安らぎを与えてくれる。一方で、農業全体が輸入農畜産物の増加による国内産価格の低迷、農家や農地の減少、担い手の高齢化、耕作放棄地の増加などの問題を抱えている。

先を見据えた施策を展開

市では、さまざまな課題に直面する農業を支援しようと、平成26年に都市農業支援センターを開設(下欄参照)。これまでに82軒の農地の有効活用をはじめ、土地の紹介や技術面のサポートにより23人の新規就農者を輩出するなど大きな成果を上げている。

今年3月には、将来にわたって安定的に農業が継続できるように「都市農業振興計画」を策定。「魅力あふれる厚木の農業」「厚木の未来につながる農業」「豊かな厚木をつくる農業」の三つの柱で、若手農家の育成や支援、環境の整備、鳥獣被害対策、販売ルートの仕組みづくりなど、10年先を見据えた施策を展開していく。

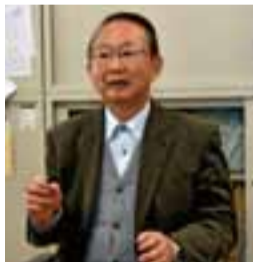
計画の検討委員会で委員長を務める

東京農業大学教授の土橋豊さん(60)は「厚木の産業を支えてきた農業を衰退させないために、行政や農業団体はもとより、土地所有者、新規就農者など農業に関わる全ての人が一体となって取り組む必要がある」と訴える。

新規就農者に追い風を

さらに農業関係者だけでなく、私たち消費者が地域の農業に当事者意識を持つことも重要だ。「市民が積極的に地産地消を心掛けること、対面販売などで生産者と交流を深めることなどが地域の農業を盛り上げ、耕作放棄地の解消につながっていく」と土橋さんは熱を込める。広大な土地で大規模展開、市場出荷する農村地帯などと違い、農家との距離が近いことから、直売などによる交流の機会にも恵まれている。

市内には厳しい状況の中、新たな風を起こそうと立ち上がる新規就農者もいる。私たちはそこに追い風を吹かせられるよう、今できることに向き合っていきたい。



農業を支える必要性を訴える土橋さん

野菜作りを 楽しもう 市民農園利用者募集

市が開設する貸し出し型の農園です。土や自然と触れ合える、農業を体験してみませんか。

【期間】4月1日～平成32年2月28日

【対象】市内在住在勤の方(1世帯1区画)

☑農業政策課にある申込書またはハガキ、ファクスに〒住所、氏名、電話番号、農園名、面積を書き、2月20日(必着)までに〒243-8511農業政策課 ☎225-2800・FAX 223-0174へ。抽選。

農園名	所在地	募集数	面積	年間料金
萩野ファミリー農園	上萩野1227-1ほか	9区画	20㎡	4800円
		1区画	30㎡	6600円
小鮎ファミリー農園	飯山2249-1ほか	2区画	20㎡	4800円
飯山ファミリー農園	飯山3005-2ほか	1区画	60㎡	1万3200円

※苗や水、農具などはご自身で用意していただきます。



農地の悩み 解消します 都市農業支援センター

市、市農業委員会、JAあつぎの職員がそれぞれの専門性を生かしながら、耕作放棄地の増加や農業従事者不足などのさまざまな課題の解決に取り組んでいます。



手厚いサポートで就農を応援

【主な業務内容】

- ・農地の貸し手と借り手のマッチング
- ・新規就農者参入の促進
- ・地産地消の推進と6次化への支援
- ・農業機械のレンタル
- ・鳥獣被害対策や相談 など

☎都市農業支援センター ☎221-5511

就農者に農地を活用してほしい



貸し手 川田光男さん 借り手 土井需さん

年齢とともに、農地を管理することに限界を感じていました。新しく就農する人に活用してほしいと思い、センターに相談したところ、すぐに借り手が見つかり、荒れた農地にならず助かりました。

Zoom Up

魅力広め「住みたい」まちへ 進む地方創生への取り組み

市では、人口減少に歯止めをかけるため、「地方創生推進プロジェクト」を始動し、まちの魅力の発信と定住促進に向けた事業を展開しています。ここで平成31年度までの取り組みが折り返し点を迎えたことから、プロジェクトにおける現在までの成果と今後の展望をお知らせします。

地方創生を推進するため、市は28年5月、市内出身者や、学校・仕事をきっかけに厚木を知った方など若い世代36人で、プロジェクトを結成しました。それぞれの立場から厚木のイメージや魅力を自由に語り合いながら、事業の検討を重ねてきました。

認知度を高めて誘客を

プロジェクトではまず、若い世代に厚木を知ってもらい、訪れてもらおうとかけづくりから取り掛かりました。28年9月、



和やかな雰囲気の中、和気あいあいと話し合いが進むプロジェクト



東京工芸大学で開講したセミナー「あつぎLIFE」では、学生からの質問に在勤市民が答えた

国民的音楽グループ「いきものがかり」の凱旋ライブで、5万人の来場者に厚木の魅力をPRしたことを皮切りに、昨年1月には首都圏の女性をターゲットにした雑誌に、市の観光特集を掲載。飯山・七沢での森林浴や温泉などを紹介したところ、読者から「高速道路でよく通るけれど、こんなに自然が豊かだとは知らなかった」「遠いと思っていたけど、新宿から1時間かからないなら気分転換の小旅行に良いかも」などと好評でした。

29年1月からは、市の観光資源を巡りながら出会いにつなげる婚活ツアーを実施。行政が開催する安心感から、毎回定員を大幅に上回る応募があるなど期待



婚活ツアーは今年も2月、3月に開催が決定。詳細は市ホームページでお知らせする

定住の選択肢に

首都圏から人を呼び込む一方、プロジェクトでは「市内の大学に通う学生の多くが厚木のことを深く知る機会がないまま卒業し、まちを離れてしまう」という意見が出ました。そこで、在勤市民が大学生にまちの魅力を伝えるセミナーを開催。都内に住む場合との生活費の比較や、厚木の住み良さをデータで示したガイドブックを配布するなど、就職後の定住に結び付ける取り組みも展開しました。

セミナーに参加した東京工芸大学3年の高崎拓也さんは「公共施設の充実度や買い物のしやすさなどは、大学に通うだけでは分からない。就職活動を控えた時期に聞けて、とても参考になった」と、振り返ります。

現在の市の人口は22万5千人を維持していますが、他の地方自治体と同様、将来的には減少が見込まれています。たくさんの方に足を運んでもらうため、今後さらに時代やターゲットを見据えた新たな事業展開が必要です。

プロジェクトでは1月から、首都圏に住むカメラ愛好家の若い女性に市内を巡ってもらう撮影ツアー「アツギ ジェニック」を始めました。撮影した写真を写真投稿サイト「インスタグラム」などで発信してもらう他、市のSNS(ソーシャルネットワークワーキングサービス)やホームページに掲載し、市の魅力をPRしていきます。

誰もが「住みたい」「住み続けたい」と思えるまちへ向けて、加速度を増すプロジェクト。将来にわたって活力あるまちであるために、これからも市民の皆さんの力で「ささる」事業を繰り広げ、確かな成果に結び付けていきます。

企画政策課 ☎25-2450

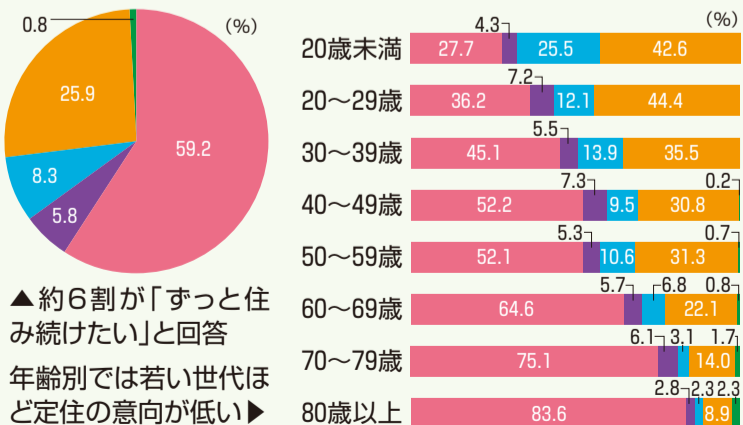
市民の力で確かな成果を

6割が「ずっと住み続けたい」と回答 市民の皆さんの意識を調査

市民の皆さんにまちづくりへの考えや生活の関心事などを聞く「市民意識調査」の結果がまとまりました。結果は、今後の施策展開の資料として活用していきます。 ☎広報課 ☎225-2043

調査期間 平成29年7月1日～20日
調査対象 無作為に抽出した18歳以上の市民(外国籍市民含む)6000人(回収率50.5%)

結果一例 《定住意向》



調査結果は市ホームページや市役所、中央図書館、公民館などで閲覧できます。

厚木の魅力を発信しよう

スマートフォン・タブレット型端末で簡単に

とっておきの絶景ポイントやお気に入りのお店など、あなたの知る厚木の魅力を広くPRしませんか。皆さんの情報をぜひ、お寄せください。

市の公式Instagramもチェックだ Boo~!

スマ報サイトから利用者登録をすれば、写真を撮って送るだけで誰でも投稿できます。

簡単アクセスはこちら ▶

☎情報政策課 ☎225-2459

Facebookページ「あつぎのいいとコロ」に参加すると、おすすめ情報を投稿・共有できます。

詳しくは [あつぎのいいとコロ](#) 検索

☎市観光協会 ☎240-1220

新東名に残した1万人の足跡

開通前にウォーキングイベントを開催



1万人が新東名を歩いて寒さを吹き飛ばした

1月28日の開通に先駆け、新東名高速道路の厚木南インターチェンジから海老名南ジャンクションまでを歩く「新東名あつぎウォーク」を12月に開催しました。開通前の高速道路を歩く貴重な催しに、市内外からおよそ1万人が参加。道路から望む景色や高速道路ならではのスポットを楽しむながら、往復約3キロの道のりを歩きました。

イベントでは、市のマスコットキャラクター「あゆココロちゃん」の交流ブースや市内特産品が楽しめる飲食ブース、友好都市・秋田県横手市のかまくらなども設置。市や、友好を結ぶ各地の魅力をPRしました。

命を守る決意を新たに

新春恒例・消防出初め式を開催

消防関係者の士気と市民の皆さんの防火意識を高めようと、1月に荻野運動公園で消防出初め式を開催しました。



「はしご乗り」で新年を祝福

式典で小林常良市長は「昨年の大型台風では、消防関係団体の皆さんのご尽力で大きな被害もなく、大変感謝している。皆さんが安心して活動できる環境を私たちも整えていきたい」とあいさつ。消防職員や消防団員、自衛消防隊員ら704人が、災害時に一人でも多くの命を救う決意を新たにしました。

3900人が観覧した消防演技では、古式消防保存会による「はしご乗り」などが披露された他、消防部隊と市民救命サポート隊による救助活動や消防団が7色の鮮やかな水柱を噴き上げる一斉放水を実施。観客から大きな拍手が送られました。

街のNEWS



兄弟で活躍を誓う

田中広輔・俊太選手が市長を表敬

市内出身で、広島東洋カープに所属する田中広輔選手(28)と、読売ジャイアンツへの入団が決まった弟・俊太選手(24)が、12月にそれぞれ市役所を訪れ、小林市長に新シーズンへの抱負を語りました。

広輔選手は昨年、自身初となる個人タイトルを獲得。ベストナインにも選ばれ、チームをセリーグ連覇に導く活躍を見せました。表敬では「結果に満足せず、チームや応援してくれる皆さんのために、来季は日本一を目指したい」と意気込みを語りました。

俊太選手は「兄と比べられるのは仕方ないこと。念願の舞台で、自分らしく活躍できるように頑張りたい」と活躍を誓いました。



さらなる飛躍を目指す広輔選手



プロでの活躍を誓う俊太選手

新成人の門出を祝福

成人式「はたちのつどい」を開催

1月に、新成人の門出を祝う成人式「はたちのつどい」を、文化会館で開催しました。晴れ着やスーツで着飾った新成人1719人が会場に足を運び、大人の一步を踏み出しました。

式は、新成人9人で結成された実行委員会が企画・運営。昨年6月から、授業や仕事の合間に何度も会議を重ね、準備を進めてきました。

式典では、実行委員長の滝沢麗命さんが(20・恩名)が「周囲への感謝を忘れず、それぞれの夢に向かって、責任ある社会人として共に歩んでいきましょう」とあいさつ。「Go your way! 咲き誇れ未来へ」という今年のテーマ通り、未来に向かって自分たちらしく歩む決意を表しました。

本年度市内で成人を迎えるのは、2501人(男1321人、女1180人)です。



友人との久々の再会を喜ぶ新成人たち

第54回 あつぎ飯山桜まつり

参加者募集

祭りを盛り上げる各種催しへの参加者を募集します。

★ダンスコンテスト

《日時》3月31日、①パフォーマンス部門=10時30分~12時②コンテスト部門=13時30分~16時《会場》飯山白山森林公園桜の広場ステージ《対象》2人以上30人程度までのチーム①10組②15組《参加費》1団体2000円。③申込書(市ホームページからダウンロード可)に必要事項を書き、2月28日(必着)までに直接またはハガキ、ファクス、Eメールで〒243-8511観光振興課☎223-0174・✉3850@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。

★花音頭パレード

《日時》4月8日、10時~11時30分《会場》飯山庫裡橋~飯山白山森林公園桜の広場《練習日》3月27-29日、4月5日。19時~《練習場所》小鮎公民館。③3月23日までに観光振興課へ。

★さくら輿

《日時》4月8日、10時~11時30分《会場》飯山庫裡橋~飯山白山森林公園桜の広場《対象》高校生以上の健康な女性20人程度《謝礼》1000円(交通費含む)。③3月23日までに観光振興課へ。



祭り名物・女性だけで担ぐ「さくら輿」

☎観光振興課 ☎225-2820

「元気」「創造」「真価」「一意専心」「原点」「総力」「情熱」「光輝」「先見」「進取」。私が今まで年頭に定めてきた市政運営のテーマです。「みんなで思いを共有し、ぶれることなく仕事を進めていこう」というメッセージを込めています。

平成30年のテーマには「誠実」を選びました。意味は「私利私欲をまじえず、真面目に真心を持って人や物に対すること」です。

基盤整備、本厚木駅前口の再開発ビルと駅前広場の整備、厚木バスセンター周辺の整備などが進んでいきます。市民協働で進めるセーフコミュニティは10年の節目を迎え、11月には本市でアジア大会も開催します。種から成長した幹を太くし、果実をたわわに実らせるのは私の使命です。真心を込めて育み、誰もが幸せを実感できるまちを実現してまいります。



今年の市政運営テーマは「誠実」

私はこれまで、将来の発展に向けて「まちづくりの種」をまいてきました。昨年は市立病院や森の里東土地画整理事業の先行整備地区、保健福祉センターなどが完成し、小さかった種が大きな果実を实らせ始めました。

今年も新東名高速道路の厚木南インターチェンジ開通とそれに伴う都市

タウンガイド

2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3					1	2	3
4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28				25	26	27	28	29	30	31

マイタウンクラブ
 ①印の番号で、ウェブ上から詳しい情報を確認できます。「①②」
 と記されたものは、申し込みも
 できます。
 ③=申し込み ④=問い合わせ
 ⑤=電話番号 ⑥=ファクス番号
 ⑦=Eメール ⑧=市ホームページ
 ⑨=GENKIポイント対象事業
 ※2月15日まで

障がい者手作り雑貨展示即売会

2月1日～28日、10時～21時(日曜・祝日は20時30分まで)。有隣堂厚木店。市内の事業所などで働く障がいのある方が作った手作り製品を販売。⑤井泉憩いの家 ☎241-0866。⑥1



市民防災研修会

2月10日、10時～12時。文化会館。危機管理アドバイザーによる減災がテーマの講演。定員1200人。無料。④当日直接会場へ。先着順。⑤危機管理課 ☎225-2190。⑥1

眠りを変えて元気アップ! 睡眠虎の巻

①2月15日②2月20日、14時～15時30分。①相川公民館②睦合西公民館。保健師による睡眠の質を改善する方法の講義とアロマスプレー作り。ゲートキーパー養成講座と骨健康度測定も同時開催。市内在住の方30人。無料。④2月1日から、健康づくり課 ☎225-2201へ。先着順。⑥10

あゆこちゃん GENKI ポイント 特別講演会

3月10日、14時～16時。保健福祉センター。信州大学大学院教授に

よる「10歳若返り! かんたんリズムウォーキング」がテーマの講演。市内在住在勤在学の方200人。託児あり(10人。2月22日までに要予約。抽選)。無料。④電話またはファクス、Eメールに講座名、氏名、電話番号、参加人数を書き、2月27日までに健康長寿推進課 ☎225-2174・☎224-8407・✉2250@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。⑥172746

空き家セミナー&不動産個別相談会

2月16日、13時30分～16時30分。あつぎ市民交流プラザ。①「空き家の利活用・管理」②「空き家を売却する際の流れと注意点」がテーマのセミナー③個別相談会。市内に空き家を所有する方①②20人③16組。無料。住宅課にある申込書(☎からダウンロード可)に必要事項を書き、2月1日からファクスまたはEメールで住宅課 ☎225-2330・☎224-0621・✉5550@city.atsugi.kanagawa.jpへ。先着順。

市民ふれあいパソコン教室

2月17日、①9時40分～10時40分②10時50分～12時。あつぎ市民交流プラザ。①パソコンの基本操作やファイルの保存方法などを学ぶ②文書作成ソフトで文書の作成方法を学ぶ。60歳以上のパソコン初心者各回12人。無料。④電話またはハガキに〒住所、氏名、年齢を書き、2月7日(必着)までに〒243-0021 岡田3050情報プラザ ☎220-2711へ。抽選。⑥①172751②172752

子育てアドバイザー講習会

3月7・8日(全2回)、9時15分～17時。あつぎ市民交流プラザ。市内在住で、地域の子育て支援にボランティアとして関わりたい方20人。無料。託児あり(1歳以上10人。2月21日までに要予約。先着順)。後日、保育所実習(半日)を実施。全課程修了者に認定証を交付。④2月28日までに子育て支援センター ☎225-2922へ。抽選。⑥172589

ファミリー・サポート・センター 提供会員を募集

地域で育児の手伝いをする提供会員を募集します。

《対象》市内在住で子どもの一時的な預かりや、保育施設への送迎などができる方(講習会の受講が必要)。④市役所や公民館などにある申込書に証明写真2枚を添えて2月28日までに直接、ファミリー・サポート・センターへ。3月7・8日、9時15分～17時に講習会を実施。託児あり(1歳以上10人。2月21日までに要予約。先着順)。⑤ファミリー・サポート・センター ☎225-2933。⑥372011

みどりのカーテン育成講座

2月25日、10時～11時30分。あつぎ市民交流プラザ。「みどりのカーテンぐらんぶり」市長賞受賞者から上手に育てるためのコツを学ぶ。定員30人。無料。④直接、電話またはハガキに講座名、〒住所、氏名、電話番号を書き、2月15日(必着)までに〒243-8511環境政策課 ☎225-2746へ。抽選。⑥172636



あつぎミニ環境フェア ワークショップ

3月3日。あつぎ市民交流プラザ。①はじめてのマイ箸をつくろう=11時

30分～、13時50分～。5歳以上の方(小学生以下は保護者同伴)②ソーラーバツを作ろう=10時30分～、12時50分～。小学生③エコ・クッキング講座=10時～、13時～。小学生以上の方(小学生は保護者同伴)。

いずれも費用は500円。各回25人。④直接、電話またはハガキに講座名、〒住所、参加者全員の氏名・年齢、電話番号を書き、2月15日(必着)までに〒243-8511環境政策課 ☎225-2749へ。抽選。⑥172753

「生ごみは、ごみじゃない」～自然の力を借りてみませんか～

2月25日、10時30分～12時。あつぎ市民交流プラザ。ものまねタレントによる紙芝居と製作者による講演、生ごみ処理器「厚木キエーロ」モニターの発表会など。定員30人。無料。④直接、電話またはハガキに講座名、〒住所、氏名、年齢、電話番号を書き、2月15日(必着)までに〒243-8511環境政策課 ☎225-2749へ。抽選。⑥172754

ごみ中間処理施設整備事業の報告会

2月18日、14時～15時30分。環境センター。事業の概要・環境アセスメントの調査状況・基本設計の報告、環境センター見学など。定員100人。無料。④当日直接会場へ。先着順。⑤厚木愛甲環境施設組合 ☎297-1153。

みんなの声で つくる まち

市では次の内容について、皆さんの意見をお聞きます。
《パブリックコメント》
■市都市計画公聴会規則の制定
《閲覧期間》2月1日～3月5日**《閲覧場所》**都市計画課、市政情報コーナー、各公民館、本厚木・愛甲石田駅連絡所、保健福祉センター、中央図書館、あつぎ市民交流プラザ、④《応募方法》閲覧場所にある用紙で確認。⑤〒243-8511都市計画課 ☎225-2401。

ホット インターネットモニターからの意見を紹介

いいメール Hot E-Mail

厚木市 インターネットモニター 検索

1月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆厚木市の子育てのしやすさはよく耳にする。もうすぐ子育て世代となるのでありがたい／20代女性◆小田急線は都心へ行くには混むイメージだったが、今後改善されていくようで期待している／40代男性◆厚木にもこんなに頑張っている若者がたくさんいることを知って、頼もしく思った／40代女性◆厚木と小田急が歩んできた歴史が分かって良かった。これからは共に発展し続けてほしい／60代男性

編集後記

特集の取材で、新規就農者の鈴木さんが育てた野菜を買っている消費者の方たちから感想を聞きました。「どんな野菜が届くのか毎回楽しみ」と笑顔で答えてくれた皆さん。今まで食べたことがない野菜に心を躍らせてたり、届いた野菜から季節の移り変わりを感じたりと、思い思いに鈴木さんの野菜を味わっていました。そんな皆さんの姿を見習って、これからはもっと地元の農産物を買って、厚木の農業を応援していきたいと思います／佐藤

自然歳時記

● ニホンリス ●
リス科

真っ二つに割れたオニグルミの食痕を見つけたらニホンリスがその近辺にいる印。注意して見てみよう。頭胴長20㌢、尾の長さ17㌢ほど。／七沢の環境保全センターで見つけた。写真・文/吉田文雄



クヌギ林に来ると、アカゲラの「キョッキョッキョ」という特有の声が聞こえ、エナガ、ヤマガラ、メジロ、コゲラの混群が楽しく通り過ぎた。

静かな時が過ぎ、クヌギの枝にニホンリスが飛び移ってきた。きっとこの枝を通ると決めて待っていると、本当にそこを通過した。

夢中でシャッターを数回押し、画

像を見るとオニグルミをくわえたニホンリスが写っていた。

ずっと昔、及川のお寺に大きなトチノキとオニグルミの樹木があり、ニホンリスが駆け上っていくのをよく見たが、今はその木も切られて跡形もなくなっていた。人間本位ではなく全ての生き物に優しい自然環境の創生を考える時だと思った。

ごみ収集車
イメージアップ絵画 **市長賞**



吉岡奈々 (南毛利小6年)
☎環境事業課 ☎225-2790

あつぎ鮎まつり
思い出絵画 **最優秀賞**



浅沼海斗 (玉川小6年)
☎観光振興課 ☎225-2820

防火ポスター **特選**



宮本侑大 (小鮎小1年)



川上真琴 (上依知小2年)



吉岡みお (南毛利小3年)



ギルリヤード
ティア梨衣世 (小鮎小4年)



森住麻莉亜 (清水小5年)



米山史夏 (毛利台小6年)



猿子壮太 (荻野中1年)



吉村彩美 (陸合東中2年)



秋本英璃佳 (玉川中3年)

☎予防課 ☎223-9371

コンクール 受賞者発表

夏休みに実施したコンクールの受賞作品を紹介しします(敬称略)。

その他の作品は [厚木市 コンクール受賞者](#) 検索

ごみ減量
リサイクル **市長賞**

■ポスター



佐藤陽向 (毛利台小2年)



田勢和真 (森の里小6年)



佐藤恵 (小鮎中3年)

■標語

「ちょっとまって!それはゴミかな?しげんかな?」小川美咲 (小鮎小2年)
「ごみ減量『もったいない』が 合言葉」 中村壮哉 (上荻野小6年)
「『まあ いっか』そこから始まる 環境破壊」 坪倉伶 (依知中3年)

☎環境政策課 ☎225-2749

動物愛護ポスター **市長賞**



坂田想良 (上荻野小2年)



片岡芽生 (依知南小6年)
☎生活環境課 ☎225-2750

人権ポスター・作文 **会長賞**



金子愛香 (小鮎中3年)

■作文 **市長賞**
「伝えたいこと」
オージーメリーアンノオマ (陸合中3年)
☎市民協働推進課 ☎225-2215

明るい選挙啓発ポスター **金賞**



鈴木愛良 (飯山小3年)

☎選挙管理委員会 ☎225-2490



奥田寧々 (南毛利中1年)

文化財保護ポスター **最優秀賞**



古谷未緒 (小鮎中3年)

☎文化財保護課 ☎225-2509



森下慧璃 (荻野中2年)

こども科学賞 **大賞**

「塩の効果」
和泉奏星 (上依知小5年)
汐音 (上依知小1年)

「水面波の研究3」
浅川祐理 (南毛利中3年)

☎教育指導課 ☎225-2675

和田傳文学賞 **大賞**

「大すきなママの手」 杉崎古都 (妻田小2年)
「父の帰国」 牛久凌太郎 (厚木第二小6年)
「私の誇り」 鈴木菜月 (依知中1年)

☎教育指導課 ☎225-2675

青少年発明コンクール **特賞**

「ヤマビル駆除装置」 遠藤瞭太 (玉川小6年)
☎産業振興課 ☎225-2830

厚木市の人口
(1月1日現在)

🏠 世帯数 9万8370世帯 (前月比16世帯増)

👤 人口 22万5812人 (前月比67人減) 男11万6731人・女10万9081人